

磐城春秋

第二號

發行所 磐城平田市
電話 三五八六
編輯所 高平
印刷所 水稲所
印刷所 水稲所

【部一價十四錢】

年頭の辭

皇紀二千六百年は敗戦といふ未曾有の汚辱の頁をわが日本の歴史の上に書きとどめてあらゆる面の紛亂と不安、國民の痛憤と悔恨の激情の嵐の中に幕を閉じた。そして兎に角ここに新しい年がめぐつて来た。

我々日本人の持つ新年に対する感情には一種獨特のものがある。それは大晦から元旦にかけての一夜ですべてを忘れて更新するといふ感情だ。「元旦や昨日の鬼が禮にくる」といひ「かくてあけゆく空のけしき昨日にかはりたりとは見えぬどひきかへ珍らしき心持ぞす」と述べてゐるのは這般の消息を明かに物語つてゐるといへよう。悪魔につかれたやうな昨年迄の不愉快

大變革のある年であると豫想される。先づ平市にとつて見ても戦災の復興以外に一月の衆議院總選舉をトツプに六月の市議改選九月の縣議改選がある。しかもこれらの選舉は新日本建設のための政治上の改革を要求する意義深い選舉である。従來と全く違つた觀念で對さなければならぬ。新しいもの、それは赤ん坊と同じだ、たとへばごんやひよわさうに見えても正しい營養を補給すれば必ず立派に成長する、新しいものを恐れよ、新しい文化、新しい政治に榮光あれ、我々は今年こそ従來の舊い觀念を全然すてて更新した氣持で來るべき國家の大變革に對したい。新しい物に對する理解なき者はバスに乗りおくれる。

穀追放

△當地方の米の價值が甚しく高いが聞く所によると大阪は一升五圓九州は一升三圓だといふ。流れて來る源のあるせいもあらうが兎に角磐城の天地は米に限らず何でも殺人的高値だ。

△干柿は皿に並べて五ツから六ツが拾圓だ。然の皮の突つ張つた連中が一貫多二十圓の生柿を賣りそこれて干柿一ヶ五圓になることに望みをかけて深山製造したさうだから今にもつま安くなるだらう。

△野茶でも果物でも交通不便な田舎にゆく程却つて高い相場で平氣である。これは我々だけ張つてゐて教養のない人達が多いからで町の人のいへないこと、できない事を平氣でいひ且つ行ふ所が恐ろしい。

△先頃平市教育會で行つた新有権者啓蒙講演で或會場では講演者が意氣込んで行つて見たら聴衆驚く勿れたつた一人だつたといふ。戦時中無理に會衆を驅り出して講演を聴かした反動と見るべきか、それとも食糧問題の方が切實になつて來たためだらうか。

△教育界に革新要求の聲が高いが先般行はれた新教育研究會の席上若い革新分子の中には幹部の新教育に對する態度にあきたらず失望觀を懷いてゐたものも少くなかつたといふ、教育こそ時代の先驅をなすべきものといふべきだ。

祝創刊

- 立憲養正會 齋藤 晃 (小名濱町住吉)
- 日本自由黨 關内 正一 (平市二丁目電一六番)
- 日東商會 長島 菊苗 (平市二丁目電四二七番)
- 古川 傳一 (植田町電話一六番)
- 日本社會黨 大井川 幸隆 (平市仲町電一九三番)
- 日蓮黨 新妻 清一郎 (久々濱町)
- 日本進歩黨 蓮沼 龍輔 (平市田町電七八九番)
- 日本進歩黨 星 一

魅力は誰れに

新人舊人色とりどり

新生日本建設の大事な役割を果すべき我等の代表を認める新選挙の総選挙に對し、新人舊人が既にそれ／＼、舊來秘策をねつて準備中のやうであつたが目下石城郡を地盤に出馬を噂せられてゐる人々は平市からは縣議元警防團長の關内正一氏が地元平市を地盤に日本自由黨から、縣議連沼龍輔氏が炭礦方面を地盤に日本進歩黨から、大井川幸隆氏が同じく炭礦方面を地盤にして時流に乗り炭礦方面を地盤に日本社會黨から出馬する事はほぼ確實と見られる。その他郡部からは縣議植田町長古川傳一氏が農業會を背景に、前代議士星一氏は病氣のため立候補断念を一時傳へられたが四圍の事情を考慮する事になるらしく、さらには福島民報副社長古和口虎雄氏が星氏と共同戦線を張ると傳へられてゐる所へ突如として平市の日東商會主長島菊苗氏が仙臺高工警城支部炭礦通信方面の支援で出馬を決意し、前回は白面の新人として敢然馬を

陣頭に進めて破れた立憲義正會の齋藤晃氏また前回のやうな官權の壓迫がないといふ所から今度こそはといふ意氣で立ち上るべく、時局に激して日進黨の結成をめざす久の濱の新妻清一郎氏また關志滿々待機状態にあると傳へられてゐる。これらの噂の人々の中で全くの新顔は長島菊苗、新妻清一郎の二氏で、年齢も齋藤晃氏の四十五、大井川幸隆氏の三十八、關内正一の五十が若い方で他は全部五十歳以上といふところ、最高は星一氏の七十四であらう、これらの人々の争ふ石城郡下の有権者数は十一月廿日現在の概數で平市と併せて總數十三万四千六百六十名その中男子が五万七千七百七十八名で女子は七万七千五百八十三名となつてをり女子の方が二万五千六百多、但しこれは概數であつて復長者復権者は投票日の前廿日迄選舉人名簿に記載される事になつてゐるから男子の有権者数は多少増加するものと見られ、今度の選

舉は官權の干渉はないし、言論は自由であるし候補者と選舉民の自覺程度と良心との試金石といへよう。生活問題の甚しく急迫せる今日もし選舉民がおどらぬ

高壓線

海軍協會の寄附金

海軍思想の普及を目指す海軍協會の支部を平市へも設けよう、市當局は去年十月七年末各區内會を通じて市民に呼びかけて會員募集を行つたがその後は未だ纏らぬ區内會がありとか、或は兵隊事務關係の多忙とかに藉口して支部結成式も擧げず更に海軍協會の設立でもななくなつてしまつた。それも已むを得ぬとするも市の御命令を真し目にうけて會員募集と同時に、普通會員三圓、正會員五圓何れも年額の會費まで徴集、市に納入した區内會では會費の返還はお先捧となつて欺した態度となつてしまつた、市にお伺ひをたてれば、募集だけ

とすればそれは候補者に魅力がないからで、もし候補者に魅力があれば空腹を抱へても是非この人をと熱狂するであらう。

住所氏名職業明記の紙上匿名は留意

で會費は徴集しなかつたのだ、いやしくも市民の金を集めながら、この有様は何事ぞ、既に當時から三年経ち四家久米治氏も兵隊課長を退き、兵隊課も復興課と改められた今日、この答も無理からぬといへ、餘りに無責任極まる、既に徴集した會費は如何に處理してゐるのか、この際一日も早く明確ならしめることが望まれる。(逸名氏)

市厚生課の答
問題の海軍協會の寄附金は三千二百三十三圓集まりました。が終戦後縣社會課からこの金は軍事援護會に寄附した事になつてをります。

野菜需給協力會費は
どうなつたか
平市では野菜入手に悩む市民を

人當り月二錢也宛三ヶ月分宛二回徴集したが肝心の時期には殆んど一回か二回申譯的にほんのチョビリ配給したまゝであり昨今統制の枠も外された頃になり、また配給し始めた。それがそこらの店で買ふより品が悪いのでその上値段も安くはない。このため區内會によつては市の配給を拒つたところもあるとき、市民から徴集した手数料の使途はどうなつてゐるか。(千田生)

市勸業課の答
拾九年九月から三月迄の蔬菜需給協力會費の決算は收入二千六百五拾八圓六拾錢が區内會寄附金(一人一ヶ月二錢宛)七百圓市補助金二圓四十一錢預金利息、合計三千三百六十一圓一錢となつてをり、支出は五十圓飯野村白土へ水害見舞、五十七圓餘出荷手数料(貫當五錢)百九十五圓集荷人夫料五百圓出荷報償費(貫當十錢)千六百六十一圓餘郡外移入運賃六百圓出荷指導員手當二百六十五圓除事務費(區内會へ交付)その他となり、差引八圓八錢が殘額となつてゐるが未拂額は運賃四百八圓餘報償金千五百四十七圓餘が二十年度に持ち越しになつてをります。

常磐炭礦と労働組合 (上)

草野正辰

月天心貧しき町を通りけり 蕪村
千二百万圓の資本金を動か
してゐる大所帯の御下屋敷
をうろついての感である。

食慾なき貧困を見るのであ
る。生命力の燃焼し喪失し
た風貌をみてとるのであ
る。彼らは決して無智では
ない。人後に落ちず人生觀
も社會認識も處生術も忠義
も宗教すらも己がものとし

あつた。併し雨やみ風おさ
まつて泥沼に浮びあがつた
殘骸を方舟からおろるおそ
る眺める眼付は、忠僕首の
座について赦免にあつた際
に似てゐる。浮び上つた潜
水艦の乗組員の面持であ
る。無風と目あてなきしば
しの彷徨のさ中にそよよ

の現況報告のため勞務者に
代つて司令部よりの召喚
を受けた者があり、その際
の報告作成のために各職場
の代表との打合せもあつ
た。歸郷しての報告懇談會
も開かれた。勞務係長は先
山連中を招集して労働組合
作成の自主的設立を促すと
云ふ劃期的英斷もあつた。

耳鼻科咽喉科 鈴木醫院
産科婦人科 井坂醫院
織田齒科醫院
産科婦人科 實川醫院
耳鼻科咽喉科 高柳醫院
眼科 明雲堂醫院
日本警察醫院 内木宗八
電話六四一

本紙は必要あらば全紙を讀者に
開放してその意見を掲載する。従
つて同一紙面に相反する二つの意
見の載る事も致へて意としない。
此の書けない方は遠慮なく御來
社、或は電話で意見を聞かして下
さい。一報次第お伺ひします。

★人物★

田附卯一郎氏

磐城農學校長

當地方の新聞がなくなつて最近の官公衛長や團体の長が少なくなつたから本報から毎號一人宛紙上に紹介することにした。最初に磐城農學校長田附卯一郎氏から始める。

磐城農學校は一昨年四月私立の佐賢學舎と磐城青年學院が學校整備の嵐でたきつぶされた代償として生れた學校だ。現在は城山の六間門のものと磐城青年學院の校舎を假校舎としてゐる。假校舎とはいへ縣立學校としては氣の毒な程お粗末だ。

門を入るとすぐ左側に藁鴉(藁ぼつち)が十基並んでをり、右側には馬小屋があつて馬が一頭飼つてある。その後には蜜峰が飼つてある。いかにも農學校らしい風景であり、西側の校舎は昨年七月の爆弾の被害を受けて硝子が全部破られ紙を張つて間に合はしてゐる。中央の玄関らしい所から入ると帽子掛下駄箱の類があり奥の方には新しい俵が並んでゐるのも豊かな氣分を興へる。右側は職員室だ。突きあつた狭い階段

を登ると校長室だ。北側には何かごたごた置いてある南側に卓子をおいて北面して校長先生が坐つて御座る南の窓からは冬の日が暖かくさし込んでゐる。

校長先生は田附卯一郎氏で國民服をきちんとつけた温厚さうな方だ。一昨年四月創立と共に會津農林の校長から着任、創立校長としてつづきに苦勞された。實習地の借り入れ物資教材の獲得等少なからず辛勞を嘗められたといふ。生れは滋賀縣長濱市、卯一郎といふ名の示す通り長男で郷里には田地があるとの事であるから近頃問題になつてゐる不在地主といふわけにならぬ。出身は上田高等蠶糸學校で本縣へは大正七年に福島蠶糸學校教諭として着任以來つとををるといふ事だから随分長いわけだ。趣味としては専門の蠶糸に關する古書の蒐集でかなり珍しいものを持つてゐるとのことだ。

本校は現在職員十三名、田附校長は中堅農村青年養成に主力を注ぐため、生徒はなるべく農村の特に長男

を優先的に入學せしめる方針だといふ。渡邊村の疎開文士上泉秀信先生に農村文化問題を講義して貰つてゐることなどは從來の所謂先生にばかり教授を受けるのと違つて生徒に高い教養を興へる事になり結構なことだと思はれる。今春四五月頃迄には植田町の俗稱東京山に本建築の第一期として十教室建つことになつてをり、七十五万圓の豫算で既に全校舎の立派な設計圖もでき上つてをり、同地には生徒の手で開墾された五町歩の畑があり、大麥、小麦ライ麥、紫雲英を耕作してゐる他、乳牛四頭、耕牛二頭を飼育し、これらは生徒の手ですべてやつてゐる。

性源寺住職渡邊則雄氏は材木町で一家全滅した櫛田榮太郎氏の靈を同寺にまつり毎日經をあげてをる、飯野龍門寺の住職片岡正龍師は東京都戦災孤兒に金百圓を贈つた。

<p>祝 創刊</p> <p>平製氷株式會社 平市五丁目 電話六三四番</p> <p>田村商會 平市才地小路 電話五一九番</p> <p>三和化學工業所 石城郡内郷町小島 整備主要工場</p> <p>福島縣指定自動車 株式會社 平市正月町 電話四九〇番</p> <p>中野勇夫 平市二丁目 電話五三番</p> <p>永山小平 平市三丁目 電話二〇三番</p> <p>志賀齒科醫院 平市五丁目</p>	<p>早坂久兵衛 平市若城跡一</p> <p>菊地徳太郎 平市田町</p> <p>三星鐵業所 松崎 平市八幡小路</p> <p>常磐交通自動車 株式會社 取締役 長野崎滿藏 平市田町 電話三四三番</p> <p>猪狩四郎 平市田町 電話四六番</p> <p>平館 平市南町 電話四六六番</p> <p>聚樂館 平市一町目 電話四七〇番</p> <p>産科婦人科 五十嵐醫院 平市新川町 電話三六九番</p>
---	---

戦争處女

鷺石生

風がサアーツと通り過ぎた。五ツ紋付に威儀を正した花婿さんと文金高島田も重たげな花嫁さんを乗せた自動車が見せよがした通るのを横眼に見送つた女事務員らしい三人連れの會話「お嫁さん若い方らしいわね」「全く馬鹿にして居るつたらないわ」「そうよ勝つまでは、なんて良い加減なことはかり並べ立て、散々人を騙して置きながらなによ……」

「戦争が終つたと思つたら復員の兵隊さん達は若い方がお好きなんだよ！」「……」「フン良い氣なもんだ」「光ちゃんあんた誰を怒つてんのよ」「斯うなつたら誰彼の區別なんてないワヨ馬鹿、しい信用出来るのはマツカ一サーばかりじやないの本當に……」「悲哀だワね」

叱られてる相手は自動車の花嫁さん達ではないらしい師走の街角で會ふ赤井嶽風は耳を千切る様だ。オ

ひの悲歎を小耳に挟んでしまつては小父さんたるもの赤井風は寒がつてばかりも居られぬ様だ。

勝つ迄はお題目で被害を蒙らなかつた者は近頃續々呼出しを受けて居る偉い人々と聞か提灯をかを上手に持ち歩いた奴の外絶無の事と思はれるが、扱て然らば誰が一番の被害者かと言ひ直るとあの三人の娘さんなどはその尤なるものと言はねばなるまい。

戦争勃發當時今の嫁さんの様に浦山しがられて良い苦の年頃なのに想ふ人には例外なく征つて仕舞はれ、當の御本人はヤレ勤勞奉仕のヤレ徴用のと尖ば脅迫めいて引張り廻された擧句……戦争は負けました……

それでもドウゾ御自由に言ふことで今流行の自由とやらになれたのでヤレ、アホッとはして見たもの、サア氣が付いて見て大變だ、層と連絡をつけて戦争中流行つた「何んとかする」テナ事を忘れて居つた故でもあるまいが年だけは几張面に取つて仕舞つて口さがな

い連中からはオールド何んとか謂ふ偉い名前まで戴いて居る始末。

眼尻の小皺に氣が懸らぬ譯ではないがそれでも重い荷物を背負つて歸る人が溢し出したので餘り小さくない胸をトキヤカして居ると何分の經濟事情で「結婚はしても喰はしてまで行く自信は絶対ない」など、堂々宣言する勇敢な連中はかりで頼りないこと話の外「親の脛を齧りながらでも結婚はしたい」組の情ない奴でさへ「何うせ貰へるものなら若い方が」など抜け／＼言ふ、さればと言つて戦時利得で金の遣り場に困つて居る豚奴の第二義的存在には眞逆？……

冗談は抜きにして何んとかせにやなるまい……全くの話し……世は寒空だが心は明るい自由だ。法律でさへ認め居る「自由結婚」の適格者で美人で物わりの良いあの様な娘さん達が自由な結婚に「不自由」して居るとは、否「不自由」させ置くとは何んぞ云つても不合理だ。

彼女達は今迄偉がつて居つた如何なる指導者より最も忠實な國策の隨順者だ。

國家に忠義だつた彼女等に終戦の今日「女性」を犠牲にしるとは餘りにも政治ない話ではないか、選挙の一票は娘さん達が女性になつてから……市川房枝女史に善處を願つて止まない。木風は止まない。娘さん達に同情ないのを怒つてゐる様に……。

祝創刊

神谷工業原料
株式会社
社長 神谷兼次郎
平市田町五六
電話 六五六番
六六五番

瀨尾藥局
平市橋小路
電話 五五三

木村五郎平
平市新川町
電話 七九三

平土地住宅有限會社
正木昌次郎
平市二丁目
電話 二〇二番

株式會社ホシ藥舗
平市三丁目五
電話 四二九番

星製藥株式會社
福島工場
平市五丁目二八
電話 六六八番
三五三番

有限會社
星アンブル工業所
平市仙町
電話 七一四番

皆様の店
大黒屋

釜屋商店
平市五丁目
電話 九番九九番

西村屋藥局
藥劑師 鈴木新右衛門
平市二丁目
電話 三番

坂本紙店
平市一丁目
電話 一八

文藝

和歌俳句の投稿を募集

枯菊抄

渡邊何鳴

枯菊を刈りたるあとの塵を掃く
菊枯れてあからさまなる故園かな
根深汁なごなくれともてなざる
畑のもの皆凍てつきてとりがたし
山吹の青枝けざかに雪かつぐ
年迎ふものさやかにとりのへり

晩秋

平第二校六士生 文子

雨戸を開けると外気がひえん、と身にしみみる。あゝもう冬だなアと感ずる。時々夜中に目をさますとほたりと柿の落ちる音がした。が今ではもう聞えなくなつてしまつた。どこの家の軒下にも色づいた干柿が並んでゐる。私が平へ引越して來た時から半年になる、母も始めての秋を迎へこの土地の風習もなれ、せまいまど口にも一並の柿を干した。この柿が干しあがる頃父

吉田履物店
平市田町

御料理 越乃家
平市二丁目
電話八八九

新しき息吹きと共に
起ち上つた

小野屋薬局
平市驛前
電話一四四

御料理

山茶莊
平市田町
電話八四七

マルサ食堂
平市二丁目
電話二七一

池坊みどり華道會

先崎翠峰
平市才雄小路
女子商業前

毎週月曜午前一回

おでん 一平
公會堂通

阿康藥局
平市田町
電話四四四

ラジヲ修理
部品電氣器具並販賣

古山電氣商會
平市二丁目
電話四二八

よろづ案内
御利用下さい

求女工委細面談

大和化學工業所
平市新川町

なんでも安い店

いづみや商店
平市驛前

美容と結髪

テツカ美容院
大庭きよ
平市新田町

正しい仕事をします

白榮舎ランドリー
平市田町
電話六六一

皆様の
磐城地方の新聞

磐城春秋

一ヶ月一四二十錢(月三回)
あらゆる種類の投書歓迎

購讀及廣告申込所

磐城春秋社
平市田町六八
電話五三三